

総合的な学習の時間－2（第1学年） レーダーチャートで複数の視点から分析する力を育成する事例  
【学習活動の概要】

1 単元名 働くということを見つめようージョブシャドウイングー		
2 単元の目標 働く人を観る活動（ジョブシャドウイング）を通して、勤労に対する新たな視点に気付き、働く意義や意味を見つめ直し、集団や社会の一員としてどのように関わっていくかを明らかにしようとする。		
3 評価規準 【課題設定の力】インタビューの分析から生じた疑問を、解決すべき課題として設定している。 【情報収集の力】課題解決に必要な情報を、働く人を観る活動や対話活動を通して収集している。 【思考判断の力】目標を達成するために、配慮事項を考えたり、必要な工夫を選んだりしている。 【将来を考える力】これからの自分と社会との関わり方を明らかにし、自らの役割を果たそうとしている。		
4 教材 本単元を中心となる題材「勤労観」は、日常生活の中での労働に対する理解や考え方と、それを果たそうとする態度や働く意味、その内容についての考え方（価値観）のことである。進路を自分の問題として考え始める中学校1年生の時期に、働く人を観る活動（ジョブシャドウイング）を通して、自分が果たす役割の新たな価値に気付き、「勤労観」を広げていくことは、2年生以降の「勤労観」の育成や進路選択の基盤となる。		
5 主な学習活動		
(1) 単元の展開（全40時間）		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次 (6)	○「働くということ」についての考えを交流し、キーワードの「役割」を見いだす。 ○「働くということ」の意味を考え、自らの役割を果たすことの意味や必要性を感得する。 ○友達や働く人がとらえている「役割」との違いや疑問を基に、追究課題を設定する。	・各自が作成したイメージマップの言葉を整理分類し、タイトルを検討することで、キーワード「役割」に気付いていく。 ・働く人のインタビューの一部(問い)を分析し、各自の予想を発表・整理することで、役割の5つの視点を考えていく。
第2次 (14)	○働く人を観る体験活動の目標、調査内容・方法を考え、事業所と打ち合わせを行う。 ○半日で、働く人を観る体験Aに取り組み、追究課題の仮の答えを出す。 ○事業所に追究課題の仮の答えを評価してもらい、働く人を観る体験Bに取り組む。	・働く人を観る体験Bの前に、追究課題の仮の答えを事業所の方に説明し、評価してもらう活動を設定し、体験Bの調査内容を絞り込む。
第3次 (20)	○追究課題を解決し、各自の「役割」への新たな気付きを整理し、共有する。 <b>〔本時15/20〕</b> ○「役割」の新しい視点でこれまでの自分を見直し、学校や家庭での自分の役割を考え宣言する。 ○これまでの学習を振り返り、「働くということ」への自分の考えをまとめ、今後の生活における行動目標を立て、発表する。	・単元当初と働く人を観る体験活動後の役割をとらえる視点の変容のグラフを分析し、各自の新たな気付きを明確にする。 ・「働くということ」について4枚のイラストにまとめ、それをを用いて学習の成果を発表する。
(2) 本時の学習		
単元当初と、働く人を観る体験活動後の「働くということ」のとらえに関する学級全体のデータを、グラフ(レーダーチャート)で示し、分析したり、各自の結果を挿入したりすることで、学級全体や各自のとらえの傾向や学習による伸長、今後の関わりの重点を明らかにしようとする。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① グラフを確認し、タイトルがない項目について、あてはまるタイトルを検討する。 ② 学級全体の傾向を分析・検討する。 ③ これからの学級の「働くということ」に関する重点となる視点を検討する。 ④ これからの各自の「働くということ」に関する重点を具体的に考え、発表する。</p> </div>		

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領 第4章 総合的な学習の時間 第3の2の(2)において、「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにする。」と示している。

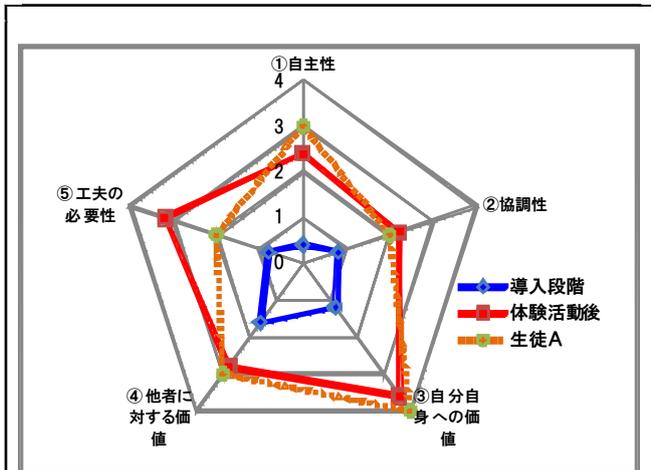
体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることは、問題の解決や探究活動の過程において特に大切にすべきことである。また、中学校においては言語を言葉や図、数等と広くとらえ、それらを目的に応じて表現したり、分析するための手段として活用したりすることが必要となる。例えば、集めた情報を分類・整理し、それを数値化することで表やグラフに表すことができる。表やグラフは、情報の全体的な傾向（増減・伸び・偏り・長所や短所等）を視覚的に分析できるよさがあり、変化を把握したり、結果を予想したり、成果と課題を明確にしたりする学習に取り入れることが考えられる。

本事例では、「働くということ」のとらえについて、体験活動後の意識の変化や考え方の広がりなどの分析を通して、これからの学級や各自の「働くということ」に関する取組の重点を明らかにする場面である。ここでは、単元当初と体験活動後の「働くということ」のとらえを5つの視点から数値化し、表された学級全体のグラフを協同で分析していく。また、その後、個人のデータをグラフに付加し、同様の分析をすることで、各自のとらえの傾向や学習による伸長、今後の関わりの重点を明らかにすることを期待した。

【言語活動の充実の工夫】－レーダーチャートによる複数の視点での分析と今後の重点の明確化－

体験活動を通して、生徒は「働くということ」や自らの「役割」について新たな気付きをしている。しかし、これらの気付きは個人レベルであったり、個々の気付きが単体で存在し、印象に残ったものだけが記憶されている状況であった。そこで、これらの気付きを整理し、追究課題の解決につなげるとともに、これからの「働くということ」への関わりを考えることへと発展させるために、

- 学級全体の「働くということ」のとらえの変化の分析
  - 各自の「働くということ」のとらえの傾向の分析
- を次の手順で行った。



\*③④⑤の項目名は、提示時にはブランク(空欄)にしている

- ① 課題解決とまとめのねらい・方法について共通理解する。
- ② 学級全体のグラフを提示し、該当する項目名や学級全体の傾向をグループで分析・協議する。
- ③ グループの分析結果を発表し、結果の可否を議論する。学級の今後の重点を検討する。
- ④ ③までを基に、個人の各自のグラフを分析し、今後の重点を考える。



グラフ(レーダーチャート)の提示の際、3つの項目名を消したことで、生徒が各自の考えや仮説を熱心に話し合う活動が行われた。また、他者の考えに納得する姿も多く見られ、教師が期待する分析ができた。中でも、学級全体のグラフに個人のグラフを付加したことで、各自の不十分な項目や努力を要する項目がより分かりやすくなった。また、学習の振り返りでは「これからの「働くということ」に関する自分の重点を考えやすかった」の発言も出て、グラフを分析することのよさを実感することができた。